

I 基本方針

1. 世界水準の教育・研究が実現でき、高いアメニティを持つキャンパス

国際的に卓越した研究の実現、豊かな人間性と創造的な知力を蓄え自立して国際的に活躍できる人材の育成、自らの教育研究機能の充実を図りながら広く社会の発展に貢献する国際的な信頼性と発信力を有する大学を実現できるキャンパスづくりを目指す。

また、屋内外の憩いやリフレッシュの空間、様々な交流の場の充実等を通じて、知的な出会いと交流が醸成される豊かなキャンパスづくりを目指す。

2. 地域や社会との活発な連携と交流を促進するキャンパス

筑波研究学園都市は、我が国の研究機関の 1/3 が集積する世界有数の研究学園都市であり、各機関・団体を含めた「産官学独」との交流・連携に一層努め、研究学園都市の「知」の集積を生かし、本学が研究学園都市の中核的役割を担って、地域や社会へ貢献するとともに、日本の活力を支え、学術文化に貢献し、世界に発信する拠点としてのキャンパスづくりを目指す。

3. 世界に誇れる魅力あるキャンパス

キャンパスの四季の彩りを飾る緑地や並木、池、広場などシンボリックな魅力ある景観を形成、維持することにより、大学構成員等が誇れる魅力あるキャンパスづくりを目指す。

4. 豊かな自然を持ち、環境に優しくサステイナブルなキャンパス

キャンパスの持つ緑と水のストックを生かして、豊かで多様な自然環境を保持・増進し、教育と研究に専念できる快適なキャンパス環境を構築し、自然エネルギー・バイオマスエネルギーを積極的に活用しながら、地球環境への負荷が低い環境共存型の先導的な環境対策モデルとなるキャンパスを形成するとともに、国際スタンダードの緑豊かで潤いのあるキャンパスの実現を目指す。

5. 全学的な視点に立脚した土地・施設の有効活用

キャンパス全体を一体的にとらえ、土地については、特定の部局の専用とせず、全学的な視点に立脚して有効活用を図る。

また、施設については、定期的に利用状況を点検し、有効活用を推進する。

6. 将来を見据え調和のとれた整備計画

教育研究活動を円滑かつ継続的に実施するため、安全かつ機能的で利用しやすい施設とすることはもとより、将来の建て替えや改修の容易さ等を考慮したゆとりあるキャンパスづくりを目指す。